七月二十一日　火曜日　　まあ仕方のないことかあ

母が十二時半頃、起こしに来た。
まだ、充分寝ていない感じ。

母の「よっちゃん、起きや」と言う言葉に、
「うん、起きる」と、蛍光灯をつけたものの、
うっつら、うっつら。

「起きろ！」と自分に言いつつ、
寝間（ねま）の中で一時半頃まで、横になっている。

下に降りた時は、もう皆寝ていた。

明かりをつけると、冷蔵庫の上に、紙切れ一枚。

母の、赤鉛筆の字だ。

戸棚から天ぷら出して、台所の板の間（ま）にどかっと置き、
それを食べつつ、紙切れの文句を何度も、何度も読む。

「よっちゃん、天ぷら食べてくださいね、母」

猫のゴロが横に座り、ものほしそう。
自分の天ぷらの魚をやる。

あげ、玉ねぎ、しょうが、魚と、
質素な材料で揚げた天ぷら。
倹約、金がない。

111　まあ仕方のないことかあ・・・・・・・・・・・・・494

Candy
in the Heart
494

萩原良昭